

鉄道・軌道業における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
2	8~9	被災者は、新駅開業に伴う操縦訓練のため、列車区に出勤することになっており、制服・制帽を着用し列車後部運転台に乗車していた。本来は別の駅で下車するはずであったが、被災者は同列車の終点は当駅であり、折り返し列車だと勘違いしていたため、車内点検を行っていた。ところが、同列車が当駅を出発した時に間違いであると気づき、同列車が出発してから約116m進行後、後部運転台よりホーム上に飛び降り、転倒し、負傷した。	50 ~ 99	50 ~ 99
2	10~11	当該車掌は、勤務するため出勤し、着替えが終わり、3階更衣室から2階の執務エリアに向かう際、下り階段で最後の一段を確認しないまま降りたため、階段を1段飛ばしで降りた状態になり、2階踊り場に右足をついた時に足首を捻ってしまった。痛みが強く乗務はできないとの申告を受け、管理者付き添いで整形外科に受診し「右足前距腓靭帯損傷」と診断を受けた。	37 ~ 299	100 ~ 299
2	16~17	リフトの営業運転終了後、スノーレーサーで走行中、気温低下により凍った雪でコントロールできず、リフト9号柱（マット巻き）に衝突し、右大腿骨を骨折した。	19 ~ 29	10 ~ 29
6	16~ 17	エレトラックの停車位置を修正するため、小移動をしていたところ急加速し、前方のパン点検台への階段にぶつかりそうになったため、反射的に右手を前方に出してしまい、右手首が階段と衝突し、右手首を受傷した。診断結果は開放骨折で、感染症が心配されることから入院となった。	55 ~ 99	50 ~ 99
7	5~6	男性寝室で起床時に起床装置を止めようとベッドから起き上がり、ドア付近の足元床面に設置されている自動起床装置を止める際バランスを崩しドアのストッパーに	44 ~	50 ~

		右足をぶつけ受傷した。		99
7	4~5	センター構内で、出区車両の点検時、下回り点検を行うため運転台より降車したところ、地面との目測を誤り、着地した際に足首をひねり捻挫した。	53	100 ~ 299
7	8~9	発着所の転落防止ステージより、運行前点検作業中に落としてしまったグリス（油）落とし、用具を拾うため近道をしようと、高さ4m程から飛び下りて、右足踵を複雑骨折した。	47	10 ~ 29
11	22~ 23	ホームで乗務（車掌）状態監視中、顔面に殴られた様な衝撃を受けた。顔面に強い痛みと鼻より多量の出血があり代替乗務員の手配後、病院を受診した。	27	300 ~ 499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html